

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 5 月 29 日現在

機関番号：11301

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2016

課題番号：26780204

研究課題名(和文)「製品開発の現地化：必要性の検討」

研究課題名(英文) Localization of product development: investigation into its necessity

研究代表者

金 熙珍 (Kim, Heejin)

東北大学・経済学研究科・准教授

研究者番号：40634530

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の3年間の成果は以下のように要約することができる。まず、26年度には、日本、韓国、中国などにおける探索的な事例研究の実施と、活発な国内・海外学会での報告を主要な活動とした。続く27年度には、「製品開発の現地化」に関する今までの研究をまとめたうえで、26年度の研究成果を加えた形で出版作業に取り組んだ。その成果として、27年の12月に有斐閣より『製品開発の現地化：デンソーにみる本社組織の変化と知識連携』が出版された。研究の最終年度である28年には、研究成果をまとめ国内・海外学会で発表しながら、海外ジャーナルへの論文投稿に主力した。

研究成果の概要(英文)：The research activities for three years can be summarized as below. Firstly, in 2014, I made multiple field works in Japan, Korea, China, etc, and presentations in domestic and overseas academic conferences. Secondly, in 2015, I tried to integrate research outcomes on the topic of localization of product development into a book, which resulted into a book titled 'Localization of product development: Denso's challenge to change headquarter organization for knowledge linkage', published on December 2015. In the last year of the research, 2016, I made multiple presentations in domestic and overseas academic conferences to share and discuss about my findings.

研究分野：国際経営

キーワード：製品開発の現地化

1. 研究開始当初の背景

新興国市場が重要性を増している中、2010年前後から開発機能の現地化を急ぐ日本企業の動きが眼立つ。主に欧米先進国市場に依存してきた既存のグローバル戦略の限界についても様々な議論がなされている。「現地顧客のニーズに適合した製品開発」を通じてシェア拡大を図る訳であり、その合理性は疑いの余地がないようにも見える。しかし、はたして現地顧客に合った製品を開発するためには、全ての企業にとって現地開発が最善の方法なのだろうか。製品開発の現地化の必要性をより合理的・多面的に考察する必要があるのではないだろうか。

2. 研究の目的

上記のような疑問より、本研究は、当初、「現地開発の必要性」を産業、企業（開発組織）市場、競争状況などといった諸要因から検討し、いつ、どれぐらいの現地開発が必要なのかを明らかにすることを目的とした。ただし、研究を進めていく中で、開発の現地化は各企業による戦略的選択であること、つまり、同じ産業の中でも各企業の選択が異なり、そこに合理的で説明力のある根拠を見つけ出すことが非常に困難であることが分かった。そこで、当初の研究目的を若干修正し、「製品開発の現地化」を強く進めようとする企業組織の中で起こり得る課題は何か、それをどのように解決していけるのか、を明らかにすることを目的にした。

3. 研究の方法

当初は、最初に立てた計画によって、「複数産業、複数市場、複数企業」を対象としたインタビュー調査を進めていった。それは、企業、産業、市場が持つどのような特性が「現地開発の必要性」に影響を与えるのかを探るためであった。しかし、前述のような軌道修正の後には、より研究対象を絞ったうえで、組

織内部における課題を深く調べるための調査方法をとった。主な研究対象となったのは、デンソー、アルプス電気、アルバック、ジャトコ、オムロンといった製造業に属する企業で、積極的に製品開発の現地化を進めている企業である。この5社の日本、韓国、中国及び台湾拠点を中心に調査を進めることで、本社に長らく蓄積されてきた製品開発に関する知識をどのように現地化していけるのか、そのプロセスにおける課題や解決方法は何かについて調査を深めていった。

4. 研究成果

上記のインタビュー調査を通じて、製品開発の現地化といったテーマを巡り、多様な視点からの研究ができた。特に、製品開発機能の現地化を進めようとしている企業内部の組織的な課題について観察・考察できたことが主な成果といえる。すなわち、本社側に長らく蓄積されてきた製品開発機能の一部を海外拠点に移転しようとしても、本社側と海外拠点側それぞれにタスク移転を妨げる要因が働いていることが分かった。まず、本社側においてもっとも興味深かった現象は、特にタスク移転先が新興国である場合、「本社エンジニアの心理的抵抗」が生じていた。一方、現地拠点側においては、エンジニアといった職種の文化の違いなどから、頻繁な離職などが問題として浮かび上がる。このような本社側と現地拠点側の組織要因が絡み合い、開発タスクを移転しようとしても計画通りに進まないことが起きる。このような、いわゆる開発タスク関連の「知識移転」を促進する方法として、従来多くの企業で活用されていた「駐在制度」と逆方向の出向となる「逆駐在制度」が有効であることが実証研究から浮かび上がってきた。つまり、現地拠点のエンジニアを本社に一定期間駐在させ、実務にかかわらせることで、本社と現地拠点の知識連携がより長期的に、円滑に行われるように

なり、それが開発タスクの移転にも大いに役立っている。このような「タスク移転の阻害要因」及び、「それを緩和できる方策」について、各社の事例を探り、まとめ上げた成果を以下の学会発表や論文、書籍として発表している。

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 2 件)

金熙珍 (2016) 「科学的ケース・スタディの要件: IB トップ3ジャーナル掲載論文からの帰納的探求」『国際ビジネス研究』第8巻第2号, 37-50. (招待論文)

Heejin Kim (2015). How psychological Resistance of Headquarter Engineers Interferes Product Development Task Transfer to Overseas Units, Annals of Business Administrative Science, 14, pp.171-191. (査読有)

[学会発表](計 9 件)

Heejin KIM

EGOS(European Group for Organizational Studies), Organizational challenges for global product development: From knowledge transfer to knowledge linkage, 32nd EGOS colloquium, 7-9.July, 2016 University of Naples Federico II, Naples, Italy

Heejin KIM

AIB (Academy of International Business), Globalizing product development and knowledge linkage: case study of headquarters and six overseas units of Denso, AIB 2016 New Orleans, 28-30, June, 2016, Sheraton New Orleans, U.S.A.

Heejin KIM

AJBS (The Association of Japanese Business Studies), Organizational conditions for developing localized products: bottlenecks in headquarters, 25-26, 2016, June, Sheraton New Orleans, U.S.A.

金熙珍 「知識移転の新たなアプローチ: 逆出向制度の有効性及び課題」、第123回コンソーシアム@東京大学モノづくり経営研究センター、2015年5月15日、東京大学(東京都・文京区)

Heejin KIM and Youngwon Park(2015) 'The role of Inpatriation and knowledge linkage: case study of Japanese firms', 7th Global Supply Chain Management Conference 2015 Proceedings, 27-29 March, 2015 Hanzhou, China

金熙珍

「開発タスクの海外移転と本社エンジニアの心理的抵抗」 国際ビジネス研究学会 第21回全国大会、2014年11月2日、3日 北海学院大学、北海道・札幌市

Heejin KIM

Product Development Globalization: Japanese Firms' Experiences 2014 Korean Academy of International Business、22th November, 2014, Seoul National University, SK Building(58), Seoul, Korea

Heejin KIM. (2014, November)

' Bottlenecks of task transfer when globalizing product development: Structural and process failures '. Papers presented at ABAS conference 2014, 28 Autumn, University of Tokyo, Japan (東京都・文京区)

Heejin KIM (2014) 'Why is it difficult to globalize product development?' , The Mitsubishi UFJ Foundation International Conference 2014 Proceedings, August 29-31, 2014, International Productivity Center, Hayama, Kanagawa, Japan

〔図書〕(計 1 件)

金熙珍 『製品開発の現地化：デンソーにみる本社組織の変化と知識連携』 有斐閣、2015年、280ページ

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

金 熙珍 (KIM, Heejin)
東北大学・大学院経済学研究科・准教授
研究者番号：40634530

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

()